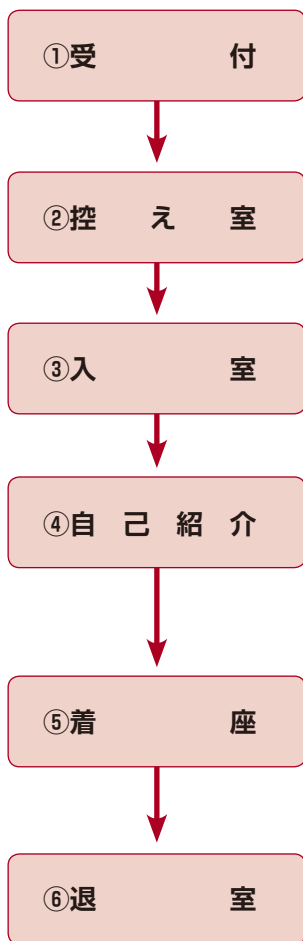


面接・グループディスカッション

1. 面接とは

採用試験における面接は企業が初めて学生と出会うシーンです。応募するみなさんにとっては、社会人としての第一歩にふさわしい企業であるか、企業にとってはこれからの会社を担う人材であるか、自分たちの仲間としてふさわしい人物なのかについて判断をする場でもあります。短時間のやりとりであっても、双方を知るための非常に重要な場面です。

2. 面接の流れ（受付から退室まで）



受付ブースの前に立ったら、大学名・学部・氏名を名乗り、面接を受けにきたことを伝えます。明るくはっきりと話すのがコツ。相手に好印象を与える態度や話し方を心掛きましょう。



待機中の態度もチェックされています。他の学生と大声で話すのは禁物。面接に備えて、志望動機などの確認の時間に充て、静かに待ちましょう。

面接室のドアを3回ノックし、応答の後、入室します。この時音をたてないように静かに入室してください。開けながら姿勢を正して「失礼します」と挨拶をし、閉めた後に向き直ってお辞儀をします。



椅子の横に立ち（ドアに近い下座側）、大学名・学部・学科・氏名を名乗り「よろしくお願ひします」と挨拶をします。面接官に促される前に挨拶をしましょう。（バッグを持って入った場合は、自己紹介の前に椅子の横に置く）

面接官から「お掛けください」と勧められたら、「失礼します」といって着席します。背筋を伸ばし、手をひざの上に置きます。男性は肩幅程度に足をひろげ、女性はひざと足首を付けて足全体を揃えて座りましょう。



面接終了後、椅子の横に立ち「ありがとうございました」と挨拶とお辞儀をします。（笑顔を忘れずに）ドアの前で向き直って「失礼します」と再び挨拶とお辞儀をし、静かにドアを開閉して退室します。最後まで気を抜かないこと。帰る際、受付の人にも「ありがとうございました」と挨拶をしましょう。

3. 面接の具体的な質問内容

企業が面接で確認したいことは、自社への志望理由や仕事に対するビジョン、どんな人物で自社にとって有用な人材かどうか、などです。面接官はこれらを判断するために、様々な質問をみなさんに投げかけてきます。質問に的確に答えるためには、企業研究・自己分析が非常に重要となります。この二つの作業を丹念に進めることにより、「自分はこのような人物です」「このような理由で御社を志望しました」と自信を持って述べるようになるはずです。

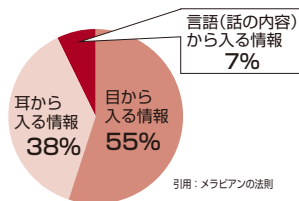
質問例

- ◆ 弊社を志望した理由は何ですか？
- ◆ 自己PRをしてください。
- ◆ あなたの長所と短所を教えてください。
- ◆ あなたが大学時代に最も頑張ったことは何ですか？
- ◆ 今までの人生の中で、一番辛かったことは何ですか？
また、それをどうやって乗り越え、そこから何を学びましたか？
- ◆ 最近気になる時事問題を挙げてください。
- ◆ 10年後のあなたを教えてください。
- ◆ APUとはどのような大学ですか？
- ◆ なぜAPUを選んで入学したのですか？

自分をとりつくりつたり、企業に媚びたりしても良い結果にはつながりません。面接では、会話のキャッチボールをする中で「ありのままの自分」をアピールできるかどうかが決め手となります。

*ただし、ありのままでありながらも、限られた時間の中で「いかに良い第一印象を与えることができるか」が面接では非常に重要なポイントとなります。

「メラビアン法則」によると、私たちが相手に与える印象の9割は、視覚・聴覚からの情報によって決定づけられていると言われています。そう考えると態度、身だしなみ、姿勢などの外見は重要です。しかしながら、もちろんそれだけで面接に合格できるわけではありません。質問に対する答えの内容から伝わるコミュニケーション能力、主体性、人間性、熱意、その他様々な内的要素も合否を左右します。どちらもバランスよくアピールできることが、合格に近づく第一歩となります。



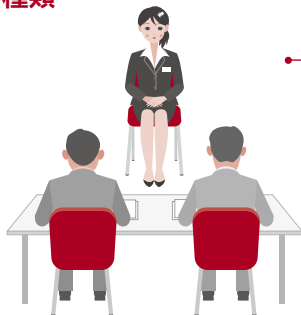
4. 面接時のマナー

- ①面接前：会場の場所とアクセス方法は必ず事前に確認し、余裕を持って行動すること。遅刻は厳禁、もしやむを得ない理由で遅れる場合は、早急に先方へ連絡を入れ、遅れる理由と到着見込時刻などを伝える。また欠席する時も、必ず事前にその旨を伝えること。無断欠席は APU 学生全体の評価を下げるばかりでなく、OB・OG・後輩に対しても大変迷惑な行為です。責任のある態度で臨んでください。
- ②面接会場：会場に入った時から退出するまで、常に「面接」という意識をもつこと。受付の仕方や会場への移動、控え室での振舞いなど、企業の方は常にチェックしています。
- ③面接：面接は「挨拶に始まり、挨拶に終わる」。入室時の挨拶による第一印象で面接の評価が決まることもあります。挨拶は元気よくハキハキと。話す時は、質問をした面接官の目を見ながら、はっきりとした口調で話すよう心がける。面接で緊張するのは当たり前。言葉に詰まったり、言い間違いをしたりすることもあります。その時は焦らず「すみません」と一言断り、落ち着いた言うべきことをしっかりと伝えましょう。
- ④最寄の駅に到着するまでは気を引き締めてください。喫煙をしたり、携帯電話で友人と話したりしないようにしましょう。

先輩からのアドバイス

| 【面接のポイント】 | 【面接の準備】 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 遅刻は絶対にしない。 ● 入室前・退室後まで見られている事を意識し、礼儀正しく振舞う。 ● 履歴書やエントリーシートのキーワード・ポイントを押さえて臨む。 ● 自然体で、相手の目を見て「笑顔」で「声の大きさ」に注意し、「自信」を持って話すように心がける。 ● 「早口」にならないよう心がける。 ● 聞かれたことに明確に答える。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 他の人に見てもらい、伝わりにくい点や話が長くなる点などを指摘してもらいながら練習し、面接に挑む。 ● 履歴書やエントリーシートに書いた内容を声に出し、何度も読んでおく。 ● 結論から答えるようにする。 ● 敬語を自然に使えるように普段から勉強しておく。 |

5. 面接の種類



【個人面接】

個人をより深くみるための最も一般的な形式。志望動機、自己PRなど質問事項を想定し、簡潔に回答できるよう発言内容を予め考えておくこと。

【集団(グループ)面接】

複数の学生に対して同じ質問を順番に回答させる形式が一般的。学生を比較することが目的で、一人に割り当てられる時間が非常に短い。他人と同じ答えになっても動揺せず、自分らしさをどうアピールできるのかが問われる。他の人が話している時の聴く姿勢も大事！ 面接中は気を抜かないようにすること。



【グループディスカッション】

テーマを予め設定し、制限時間内で自由に討議させる。そのグループでの貢献度、個人の主体性、論理性、コミュニケーション能力などと同時に、会社にふさわしい人材かなどを観察・評価される。



【プレゼンテーション】

事前、あるいは当日与えられたテーマについて、学生一人ひとりが面接官の前で自分の意見や企画などを発表する。問題意識、論理的思考、知識や表現力などを面接官は冷静に観察。



【Web 面接】

内容は基本的に 個人面接と同じ。地方あるいは海外など遠隔地にいる応募者と顔を見ながら話ができ、移動時間・費用などが節約できるといった利点がある。会場が指定されないため、自宅で行うケースが多い。よりスムーズに面接が受けられるよう、事前の準備と注意が必要。



CHECK!

新型コロナウイルスの拡大から、急速に導入が進んでいる面接スタイルです！

【グループディスカッションとは】

あるトピックやテーマによって議論を展開し、グループの最終的な結論をまとめるものです。おもなポイントとして、「協調性」「リーダーシップ」「コミュニケーション能力」といった社会人としての“対人能力”、さらに「論理性」「知識」といった“個人能力”を見られます。グループディスカッションでの姿を通して、企業は「一緒に働きたい人」を探しています。

(1) 「対人能力」とは

- ◆人の意見に耳を傾けることができる
 - ◆人の意見を頭ごなしに否定しない
 - ◆人格を否定するような発言はしない
 - ◆煮詰まった状況などで、リーダーシップがとれる
 - ◆あまり話をしていない人に対してさりげなく発言の機会を与えることができる
 - ◆正しい敬語を使う
- 《友人や家族との付き合い方・大学生活・アルバイト・インターンシップ・課外活動などの対人関係から培われます》

(2) 「個人能力」とは

- ◆経済・経営の常識を知っている
 - ◆大学で学んだ専門性などを応用できる力がある
 - ◆アイデアを生み出せる
 - ◆論理性が高い
 - ◆対立する意見の本質的な問題を見つけられる
 - ◆課題発見・課題解決能力がある
- 《本・新聞・経済誌を読む、常に問題意識を持つなどの個人的努力から培われます》

先輩からのアドバイス

【グループディスカッションのポイント】

- 議論の「目的」を明確にする。
- グループの中で「自分の役割」を定める。(但し、周りを見て臨機応変に対応すること。)
- 人の話をよく聞き、あいづち、自分の考え・意見もしっかり述べる。
- 明るく「丁寧語」で話すことを心がける。
- グループ内で発言していない人には話を振る「気配り」をする。
- 自分が持っている知識をグループで共有する。
- 一期一会のグループに「楽しんで！」取り組む。
- 自分だけ目立とうとしない。
- 背伸びせず自然体で！
- チームワークを大切にする。
- 積極的に議論に参加する。
- 結論を必ず時間内に出すこと。
- グループ全員が納得する結論を導き出す。
- ディスカッション前の雑談などを大切に。「初対面の壁」を取り払うよう心がける。

【Web 面接とは】

最近は Web を利用して面接を行う企業が増えています。地方あるいは海外など遠隔地にいる応募者と簡単に繋がり、顔を見ながら話ができる、移動時間や費用などが節約できるといった点が理由です。

Web 面接は会場が指定されないため、自宅で行うケースが多くなります。面接がより円滑に進むように、いくつか注意点を紹介します。

【注意点】

| | |
|---------|--|
| 服 装 | 自宅であっても「面接」に変わりありません。きちんとスーツを着用し、身だしなみにも気をつけましょう。 |
| 環 境 | カメラに写る背景の状態を確認しましょう。散らかっていたり、壁に奇抜なポスターを貼っていたりすると良い印象を与えません。きれいに片付けて面接に臨みましょう。 |
| 照 明 | 部屋が暗いと顔がよく写りません。十分な明るさを確保し、自分の顔がはっきりと写っているか事前に確認しておきましょう。 |
| マイク・環境音 | マイクのボリュームが適切に確認しましょう。マイクに入ってしまうような音が出てないかにも注意し、もしも支障があれば防音・消音の工夫、場所を変えるなどの対応をしましょう。家族がいる場合には、Web 面接を受けることをあらかじめ説明し、その時間の協力をお願いしましょう。 |
| カメラ・視線 | 顔がきちんと写るようにカメラの位置を調整しましょう。ついコンピューターの画面を見てしまいがちになるので、必ずカメラを見るようにしてください。画面を見ると視線が下がり、面接官と視線が合わず、良くない印象を与えてしまう可能性があります。十分注意をしてください。 |

※コンピューターでチャットなどを行っている人は、メッセージが入らないように設定しておきましょう。もしも余裕があれば、一度友人などにお願いし、Web 面接の練習をすることをおすすめします。